第 27 回日本疫学会学術総会開催を終えて

山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座
第 27 回日本疫学学会学術総会会長　山縣然太朗

第 27 回日本疫学会学術総会を 2017 年 1 月 25 日から 27 日に山梨県甲府市のベルクラシックで開催させていただき，無事日程を終了することができました。補助金をいただきました山梨大学医学会に学会長として御礼申し上げ，学会のご報告をいたします。

晴天に恵まれ，富士山，八ヶ岳連峰，南アルプス（赤石山脈）が青空に雪景色を輝かせた 3 日間でした。おかげさまで，過去最高の 770 人（事前登録 464 人，当日参加 306 人）の参加者をお迎えすることができました。一般演題には 313 演題（口演希望 151 題）の申し込みをいただき，一般口演 74 題，ポスター発表 234 題を発表いただきました。海外からは 12 演題でした。

本学術総会のテーマを「ライフコース・ヘルスケアを支える疫学」として，疫学セミナーから，学会長講演，特別講演，シンポジウムまで，コホート研究など生涯を通じた縦断研究に関するものに統一させていただきました。疫学セミナー「追跡データの分析 A to Z」はこの分野を牽引する先生方に企画，講義をしていただき，定員を超える 244 名の参加で大盛況でした。「リーダーが語るコホート研究のガバナンス～立ち上げ，継続と成果の還元～」は文字通りわが国が誇る疫学者が，研究成果の裏にある苦労や葛藤，達成感を語っていただき，それを受け継ぐ若手研究者は，人と社会を対象とした疫学研究の難しさと喜び，研究ガバナンスの重要性を胸に刻んだことと思います。社会保障・人口問題研究所の森田朗所長による特別講演は医療制度，マイナンバーに関して国内外の状況を踏まえた俯瞰的なご講演で，思わず話に惹きこまれました。また，昨今の臨床研究推進の機運と多くの臨床医に疫学会に参加いただきたいとの思いから，学術委員会に臨床疫学をテーマにした企画のお願いをご快諾いただき，大好評のシンポジウムをしていただきました。トピックスでの日本と中国の喫煙対策，倫理指針改正，編集委員会企画での国際研究者識別子 ORCID，エコチル調査シンポジウムでのそれぞれのご講演は参加者に多くの大切なメッセージをいただきました。そして，何よりも素晴らしい研究成果の発表やすべてのセッションでの熱い議論を展開していただきました。

新しい試みもさせていただきました。一つは本学会総会ではじめてのデジタルポスター発表です。座長の先生，ご発表の先生には戸惑わせてしまったかもしれませんが，200 を超えるポスターの印刷費の負担軽減は少しでも研究の援助になったのではと思っています。また，デジタルプログラムは手作りの簡易なものでありますが WEB で提供させていただきました。懇親会での柳田教授によるワインセミナーは開催前から問い合わせが多く，好評でした。

一方で，ホール会場でないためのご不便や，会場案内やタイムキーパーを置かず，これらを座長の先生にお願いしたことや，参加予想人数を見誤り，当日受付の方に一時，抄録集をお渡しできないことがあったり，会場の席が足りずに立ち見をしていただいたり，Melbey 教授の急病により急遽プログラムを変更させていただいたり，学会関連業者に業務委託をしなかったために，きめ細かな準備ができていなかったり，様々な対応にご不満もあったと思います。すべては学会長の私の責任です。後悔先に立たずではありますが，今後の総会のために，今回の経験を報告書にまとめる予定です。

最後に，身内のことではありますが，総会の準備，実施に尽力してくれた講座のスタッフ，関係者の皆様に心から感謝します。